

# 中国における農業改革前の人団移動と医療水準

## -黒龍江省の農村の場合-

川副延生（名古屋商科大学）

### 概要

黒龍江省の農村での健康水準は全国と比べるとより良いものであった可能性がある。自然条件が厳しくまた邊疆に位置しているが、一方で農牧林業・工業の建設が進められ、國家の支援と多種の形態での移住により発展してきた。これらのこととは農村の健康水準を向上させた要因だと考えられる。

### キーワード

人口移動、遷移率、国営農場、下放、死亡率、農村医療、農村医者

## 1 人口移動

### 1.1 全国の人口移動

建国後、国家は経済開発などのために大規模な移民・移住計画を実施した。本稿では省内外の移動の類型として、

- 1) 開墾移民、辺境支援、農林牧業新基地の建設
  - 2) 都市人口の圧縮、機構の簡素化（精簡）、下放、幹部と知識青年の上山下郷およびその都市回帰
  - 3) 自発移民
- を中心にして検討した。なお移動状況での注目点は、1954年-62年時期の移動が多く、次に多いのは文化大革命の初期の1966年前後と、終了直後の1979年前後である。これらは政治、経済状況を相当程度反映したものになっている。  
(表1の遷移とは、主に住居登録を居住地から移動させた場合を示していて、省内での移動も遷移として計上されている)

### 1.2 黒龍江省の人口移動

黒龍江省では上記の1) - 3) の形態での移住が多い。建国初期から1961年までは第1次5ヵ年計画および大躍進時期前後にあたり、省内外の移動が多い。経済開発のために国家が移住させた都市の職工と家族、元軍人と都市知識青年の集団移民および山東、河南、河北などの農民の自発移民などである。

### 1.3 人口移動と国営農場の建設

中国的農業は一般の農村（人民公社が主体）と国営農場（国家直営企業）とで行われていた。国営農場の任務は、

- 1) 食糧・工業原料生産
- 2) 優良品種の繁殖育成と農民の技術水準の向上

表1 人口遷移率 (単位: ‰)

	全国		黒龍江省	
	遷入率	遷出率	遷入率	遷出率
1954	37.8	35.4	107.2	92.5
1955	41.8	40	120.3	104
1956	48.6	45.6	119.9	85.1
1957	43	40.7	106.5	89.8
1958	49.2	47.3	109.8	75.3
1959	47.5	42.7	112.7	62.3
1960	50.1	48.4	138.8	89.7
1961	29.4	32	55.3	56.5
1962	32.5	34.6	51.5	69.3
1963	19.3	20.5	16.4	35.6
1964	20.2	20.2	47.3	37.5
1965	22.6	22.7	44.7	38.8
1966*	20.2	19	32.9	30.6
1967*	19.1	17.9	-	-
1968*	22.4	22.1	-	-
1969*	23.2	23.1	-	-
1970*	19.8	19.3	39.2	31
1971*	18.2	16.3	41.7	29
1972	18.6	18.3	39.9	29.3
1973	16.3	14.7	28	24.6
1974	15.1	14.5	30	26.1
1975	18	16.8	33.6	29.1
1976	17.5	16.4	32.8	27.6
1977	18.6	15.5	30.6	26.5
1978	19.2	18.2	30.5	26.1
1979	24.2	22.8	37.1	36.4
1980	20.1	19.1	27.1	25.4
1981	21.2	20.1	23.4	24.5

(遷入率=遷入人数／平均人口×1000)

表2 黒龍江省国営農場経済指標

	農牧場数 (個)	総人口 (万人)	農場人口 (万人)	農場人口／ 省農業人口	耕地面積／ 省耕地面積
1949	16	0.5	-		0.005
1952	23	2.7	-		0.015
1957	72	23.3	-		0.015
1965	103	92.7	-		0.15
1978	113	176.8	140.5	0.069	0.224
1980	103	164.7	149.9	0.075	0.223

3) (辺疆地区の国営農場は) 辺疆の開発と防衛などである。

1962年の時点で黒龍江省の国営農場は4つ分類される。即ち、中央直属(國務院農墾部)、省属(省農墾庁)、省属労改農場(省公安庁)、專区・県属(專区・県)である。

国営農場は国営企業であり、国営企業としての給与体系であり、また公費医療制度が適用されていて事実上医療費は無料であった。そのため国営農場では合作医療は行われていない。隣接する一般の農村と国営農場では、医療保険制度という点で大きな違いがあった。

## 2 黒龍江省の農村の医療状況

### 2.1 死亡率

黒龍江省の死亡率は市・県とも全国平均よりもかなり低くなっている。これは青壯年の人口流入の多さが年齢構成に影響を与え、高齢者の少ない年齢構成が全体の死亡率を低めている主要な要因だと考えられている。年齢構成を調整した標準化死亡率を考えると、黒龍江省の死亡率は全国平均と比べて大きくは異ならないという指摘がある。

しかし一方で、1977年以降では市よりも県の死亡率が低くなるという状態が続いている。これも年齢構成が主要な要因だと考えられるのだろうか。この問題についての検討結果を学会の時に報告します。

### 2.2 乳児死亡率

乳児死亡率のデータは完備されていない。そのため部分的なデータだけを利用して検討した。黒龍江省では全国と比較して乳児死亡率が低くではなく、医療条件がすべて良かったわけではないことが示唆される。

### 2.3 1生産大隊あたりの農村医者数

1生産大隊あたりの農村医者の数が、黒龍江省では全国平均よりも10%程度多くなっている。ところで国営農場は生産大隊という組織ではなく、公費医療制度のもとにあり合作医療という制度とは無関係だったので、この数値は国営農場を含まない一般農村だけでの数値であったと考えられる。

国営農場については、上述のように年齢構成による低死亡率および公費医療制度で事実上無料医療を享受していたということを考慮すると、70年代の国営農場での医療条

件は一般農村よりもより良いものであったと考えられる。

表3 死亡率 (単位 %)

	全国			黒竜江省		
	全体	市	県	全体	市	県
1949	20.0	-	-	-	-	-
1950	18.0	-	-	-	-	-
1951	17.8	-	-	-	-	-
1952	17.0	-	-	-	-	-
1953	14.0	-	-	-	-	-
1954	13.2	8.1	13.7	11.1	8.6	11.7
1955	12.3	9.3	12.6	11.3	9.9	11.7
1956	11.4	7.4	11.8	10.1	9.0	10.4
1957	10.8	8.5	11.1	10.5	9.5	10.7
1958	12.0	9.2	12.5	9.2	7.9	9.6
1959	14.6	10.9	14.6	12.8	11.6	13.2
1960	25.4	13.8	28.6	10.5	10.4	10.6
1961	14.2	11.4	14.6	11.1	10.7	11.4
1962	10.0	8.3	10.3	8.6	8.1	8.9
1963	10.0	7.1	10.5	8.6	7.4	9.1
1964	11.5	7.3	12.2	11.5	9.1	12.4
1965	9.5	5.7	10.1	8.0	6.1	8.7
1966	8.8	5.6	9.5	7.4	6.7	7.6
1967	8.4	-	-	6.0	5.6	6.2
1968	8.2	-	-	6.0	5.4	6.3
1969	8.0	-	-	5.9	5.1	6.2
1970	7.6	-	-	5.8	5.2	6.0
1971	7.3	5.4	7.6	5.8	4.9	6.1
1972	7.6	5.3	7.9	6.3	5.3	6.6
1973	7.0	5.0	7.3	5.6	5.1	5.8
1974	7.3	5.2	7.6	5.6	4.9	5.8
1975	7.3	5.4	7.6	5.4	5.1	5.4
1976	7.3	6.6	7.4	4.9	4.8	5.0
1977	6.9	5.5	7.1	5.0	5.2	5.0
1978	6.3	5.1	6.4	4.7	4.9	4.6
1979	6.2	5.1	6.4	4.3	4.6	4.3
1980	6.3	5.5	6.5	4.9	4.8	4.9
1981	6.4	5.1	6.5	4.8	4.8	4.8
1982	6.6	5.3	7.0	4.9	4.8	4.9
1983	7.1	5.9	7.7	4.5	4.8	4.4
1984	6.7	5.9	6.7	4.5	4.5	4.5
1985	6.6	6.0	6.7	4.3	4.5	4.2
1986	6.7	5.8	6.7	4.4	4.5	4.3
1987	6.7	-	-	4.2	4.7	4.0

表4 1生産大隊あたりの農村医者数

	全国(人)	黒竜江省(人)	黒竜江省:生産大隊医者数(人)
1970	1.9	1.9	20377
1971		1.3	15327
1972		1.8	20229
1973		1.8	20674
1974		2.4	28556
1975	2.3	2.5	31817
1976		4.2	54197
1977		2.7	34655
1978		2.5	33551
1979		2.4	31703
1980	2.1	2.2	29770
1981		2.2	29485
1982	1.9	2.3	32709